

知っていますか 戦時中のこと

清瀬と戦争

この清瀬にも 戦争があったのです

2024年版

内 容

◎ 平和首長会議	表紙
◎ 清瀬と学童疎開	P.2
◎ 東京大空襲と清瀬	P.3
◎ 清瀬と空襲 ① 空襲の犠牲者・不発弾処理	P.4
清瀬と空襲 ② 当直日誌に見る清瀬空襲	P.5
清瀬と空襲 ③ B29墜落(平和観音像)	P.6
◎ 日記に見る戦時中の暮らし	P.7
◎ 非核清瀬市宣言	裏表紙



当時の郵便局の建物(現上清戸1-11)
(1965年撮影)

当時の清瀬村で唯一の郵便局。当時の建物としてはモダンな建物でした。郵便業務や電信電話を取り扱いました。元町に本局ができる1961(昭和36)年まで営業しました。

この郵便局から数百メートルの、中清戸の志木街道沿いで、爆撃による犠牲者が出ました。

(P.5「傷痍軍人東京療養所」日誌 参照)

アジア太平洋戦争の末期、清瀬は人口が8,000人ほどの村でした。今の西武池袋線の北側は農村地帯で、村役場(現市役所)や郵便局(現上清戸1丁目)に所在、公立小学校(清瀬国民学校=初等科と高等科、現在の清瀬小学校)がありました。

線路の南側の松山・竹丘・梅園は「芝山」と呼ばれていました。住宅は少なく、東京府立清瀬病院、民間のベトレハム療養所、軍関係の傷痍軍人東京療養所など、広大な敷地を有した結核療養施設がありました。

軍事施設は、下清戸の南東から隣接する新座市西堀にかけて海軍の大和田通信所(現米軍通信基地)があり、中清戸の神山(こうやま)公園のところにも通信施設などがありました。中清戸4丁目アパート近くに陸軍の探照灯(サーチライト)が配置され、松根油を製造する施設が今の上清戸1丁目(旧吉川青果市場)にありました。

村人の多くは農業に従事していましたが、軍への協力を求められて、松の根を掘り出す仕事や、飛行機の掩体壕(えんたいごう)づくりなどの勤労奉仕に行きました。

1944(昭和19)年夏、都心の学童が集団疎開してきて、3つの寺に分かれて生活しました。物資が極端に欠乏し、灯火管制で薄暗い中を、警報が鳴ると庭先に掘った防空壕へ逃げ込む日々が続いて、人々は安心して生活できませんでした。

1945(昭和20)年4月2日の空襲で、村では中清戸・下宿で女と子どもばかり16人以上が爆死し、清瀬病院でも入院患者2人が犠牲となり看護婦1人が負傷しました。

(1) 平和首長会議に加盟しています

清瀬市は2009年3月2日に「平和市長会議」に加盟しました。

(2013年8月6日から「平和首長会議」に名称変更しました。)

会長は広島市長、副会長は長崎市長、事務局所在地は広島市です。

加盟自治体数(2024年1月1日現在)

世界 166ヶ国・地域の8,349都市

日本 1,739自治体

東京都 62自治体(23区・26市・13町村)

(2) 日本非核宣言自治体協議会に加盟しています

清瀬市は2023年4月21日に「日本非核宣言自治体協議会」に加盟しました。

協議会員自治体数(2024年1月1日現在)

日本 356自治体

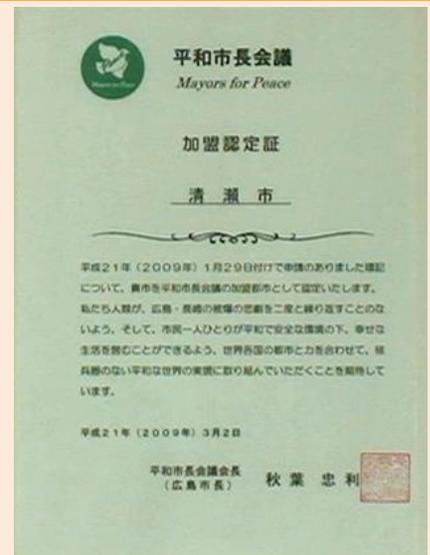
東京都 19自治体(7区・12市)

【区部：7区】

港区・新宿区・目黒区・杉並区・豊島区・板橋区・練馬区

【市部：12市】

武蔵野市・三鷹市・青梅市・調布市・町田市・小金井市・日野市・国分寺市・清瀬市・多摩市・羽村市・西東京市



平和市長会議加盟認定証



平和首長会議
ホームページ



日本非核宣言
自治体協議会
ホームページ

清瀬と学童疎開

青山国民学校から延べ130人が疎開

太平洋戦争中、戦争がいちだんと激しくなると、大都市へのアメリカ軍の空襲を避けるために、大勢の小学生が親元を離れて、都心から農村に集団で疎開しました。当時農村だった多摩地区には7000人余りの児童が疎開してきました。清瀬にも、1944(昭和19)年8月、現在の港区にあった青山国民学校の児童79人が疎開し、中清戸の全龍寺、下清戸の長命寺、下宿の円通寺の3つのお寺に分かれて集団生活がおこなわれました。1945年3月に卒業式を前に6年生男子が円通寺から都心の学校に通い、卒業後は同じ青山国民学校の新3年生女子22人が円通寺に、5月4日に1年男子3人女子6人が長命寺に疎開してきたことが青山国民学校沿革史に記されています。



2023年12月撮影
全龍寺(中清戸)
1944年3年生男子34人疎開



2023年12月撮影
長命寺(下清戸)
1944年3年生女子27人疎開
1945年1年生男子3人女子6人疎開



2023年12月撮影
円通寺(下宿)
1944年6年生男子18人疎開
1945年6年生男子18人引上
3年生女子22人疎開

学童疎開って？

太平洋戦争中、都心への空襲に備えて急いで国民学校(今の小学校)のこどもたちを都会から安全な地方に引っ越しさせました。こどもたちを守るというより、空襲の時に足手まといになるこどもたちを疎開させることで大都市の防空体制の強化を目指し、こどもたちを将来の兵力として温存するのがねらいでした。

① 縁故疎開 地方の親戚や知人宅に疎開するよう奨励されました。

② 集団疎開 地方に親戚や知人のない国民学校3年生以上のこどもたちを、学校ごとに地方に疎開させました。1945年3月からは1・2年生の疎開も実施されました。親たちはこども一人について布団一式と毎月10円の食費の負担に苦しみました。

③ 残留 家計や健康上の理由で都会に残るこどもたちもいました。

こどもには
つらかった
集団疎開

当時大学生だった円通寺の住職青木光啓さんのお話では、1944(昭和19)年夏に疎開してきた青山国民学校の6年生男子は、級長の号令でまとまって行動していたそうです。青木さんは毎週月曜の1時間目だけ「般若心経」などを教えました。

(2007年7月：円通寺でインタビュー)

当時、級長をしていた小林直靖さんは、柳瀬川でつりをしたり、イナゴを捕って食べたり、犬の肉を食べたこともあるそうですが、「楽しいというようなことは、なかった」と話していました。

(2007年11月：南青山の自宅で)

当時14歳だった齊藤靖夫さんは、大勢の同級生と昼頃に国分寺まで出かけて、学童疎開の人たちが使う机と椅子を、数台のリヤカーにのせて、清瀬国民学校までひいてきました。帰宅した時は薄暗くなっていたそうです。

(P.7「齊藤米蔵さんの日記から」参照)

「平和の塔」(戦争犠牲者の霊を祀る：中央公園：梅園1-613)

「平和の塔」 制作：故 澄川喜一

中央公園に、1974(昭和49)年に両手を合わせて祈るような形の「平和の塔」が建てられました。塔の裏側の銘文に建設の趣旨が記されています。



2023年12月撮影

澄川 喜一氏

略歴

昭和6年 島根県鹿足郡六日市町(現古賀町)生まれ
昭和27年 東京藝術大学入学
昭和36年 清瀬市に転居
昭和49年 「平和の塔」制作
平成24年 清瀬市名誉市民に選定
令和2年 文化勲章を受章
令和5年 逝去(91歳)

東京芸術大学名誉教授。元学長。東京スカイツリーのデザイン監修者のひとりです。澄川さんはケヤキロードギャラリー開設や、けやきホールの建設にも尽力されています。

記 昭和49年11月

すぎし第二次世界大戦の終結をみてから29年経過したこんにち戦争は再び生じてはならないと私どもは深く心に刻み戦死された市民戦災引揚などで亡くなられた市民の霊を今ここに祀ります。

真の平和と社会の繁栄が永遠に続くことを市民一人一人が願いをこめて平和の塔を建設しました。この塔は市民の平和のシンボルとしてまた市民の心のよりどころとして、いつまでも平和を守りぬいていきます。

清瀬市平和の塔建設委員長 渋谷 邦 蔵

1973年7月に刊行された『清瀬市史』には、日華事変(1937年7月7日の盧溝橋事件に始まる日中全面戦争)から、第二次世界大戦の敗戦(1945年8月15日)までの間に、清瀬から出征して亡くなられた177人と、清瀬空襲の犠牲者16人の名前が載っています。

ほかにも清瀬病院の同窓会誌「雑木林」には清瀬病院の患者2人が空襲で亡くなったとあります。

中清戸では、疎開してきたその晩に空襲で亡くなられた方がいるそうですが、記録には残っていません。

東京大空襲と清瀬

1945(昭和20)年3月10日未明に東京大空襲がありました。低空で、東京下町上空に侵入したアメリカ軍のB29爆撃機 279機が、大量の焼夷弾を無差別に投下しました。

2時間半におよぶ爆撃で街が焼きつくされ10万人を超える人々が焼き殺され、大勢が火傷を負いました。東京大空襲からおよそ一週間後、東京大空襲で火傷を負った人々が、都心の病院から清瀬病院に運ばれてきましたが、医薬品も不足していて十分な治療ができず、その多くが破傷風などで亡くなりました。

清瀬病院



「ここに清瀬病院ありき」の碑



国立看護大学校

清瀬中央公園や国立看護大学校そして日本看護協会の看護研修学校や図書館(2008年4月に閉校した国立東京病院付属リハビリテーション学院の跡)にかけた辺り一帯が、当時は清瀬病院(日本医療団清瀬病院)でした。

看護大学校の正門の北側の入り口から中央公園に入ると「ここに清瀬病院ありき」と記した記念碑があります。(2023年12月撮影)

部(しとみ)さんの日記 (抜粋)

3月16日

午後3時頃より、罹災者続々トラックに荷物のように乗せられて、非常口より運び込まれる。50人余り全部やけどらしく、顔・手・足、そのひどさに息を呑む。

3月17日

午後より約60人位、また収容。午後3時頃より、7時過ぎまで治療。

3月18日

ひどい風。砂ほこりの中を罹災者運搬で大変。きょうは約70名19病棟へ入院。毛布が来たので助かった。

(清瀬病院の同窓会誌「雑木林」から)

清瀬病院元看護婦 岩本文江さんの話

東京大空襲から一週間後、包帯でぐるぐる巻きの大量の罹災者が、木炭で動く軍用トラックに、荷物のように積まれて清瀬病院に運び込まれました。

血とウミでべっつりの包帯をほどくと、ウジムシが湧いていて大変。医薬品もない時代、ろくに治療もできなくて、破傷風などでたちまち半数近くが亡くなりました。

身寄りの分からない遺体を、村役場と相談し、田無警察が立会って行路病者として、圓福寺に埋葬しました。境内に大きな穴を掘って、33体の遺体を井桁(いげた)を組むように積んで、生のままで埋葬したのだそうです。

(清瀬第五中学校生徒のインタビュー 1995年9月)

中央公園から西北西におよそ450m、清瀬第四中学校の西隣に圓福寺があります。この寺の墓地に、2008年春に再建された無縁供養塔があります。無縁供養塔の側面には「戦争の傷跡を知らない貴方たちへ」と題した平和への熱い思いが込められた説明板があります。

無縁供養塔(圓福寺)



2023年12月撮影



清瀬と空襲

1945(昭和20)年4月2日に清瀬が空襲されました。中島飛行機武蔵製作所(現在の武蔵野市中央公園付近一带)を目標とした6回目の大規模空襲でした。

この空襲では、B29がそれまでの約2倍で過去最大の弾薬を積み込んでいました。また、照明弾と時限爆弾が併用されました。

空襲が終わった後も時限爆弾が爆発するので、住民はいつまでも不安でした。

この空襲のとき、清瀬病院に爆弾が落とされ、建物の一部が破壊され、患者2名が死亡、看護婦1名が負傷しました。

清瀬病院を爆撃したB29が、野塩橋の西側、今の東村山市の秋津町1丁目の小俣権太郎宅の畑に墜落しました。

(P.6参照)

「傷痍軍人東京療養所」の医師が記した当直日誌に貴重な記録が残されています。

(P.5参照)

女と子ども18人が犠牲に 下宿と中清戸で

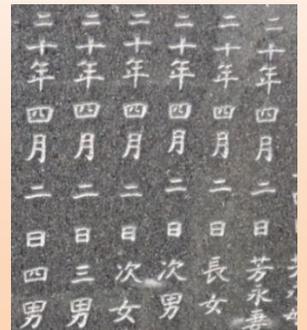
1945(昭和20)年4月2日の空襲では、防空壕に入っていた女と子どもばかり18名が直撃を受けて犠牲になりました。

中清戸では住民13名、下宿でも住民3名が犠牲になったほか、中清戸では清瀬に疎開してきた1人がその日に直撃を受けて亡くなったと、遺族のひとり並木弘伸さんは語っていました。

全龍寺には4月2日に亡くなられた女と子どもばかり6人の名前がずらりと並んだ墓誌が、下宿の円通寺には「爆死」と刻まれた3人の墓碑があります。



下宿の円通寺の墓碑



中清戸の全龍寺の墓誌

清瀬空襲 体験者の話

空襲の夜、消防団の団長さんが「警戒警報!」と言って回ってきたときには、落下傘にぶら下がった照明弾がずーっと落ちて、昼間のようになっていました。

(並木弘伸さん P.5の当直日誌参照)

平和祈念フエスタ 「戦争体験談」から 二〇〇七年三月十七日収録

当時結核研究所(今の複十字病院)の中にあつた清水組(今の清水建設)の作業所で働いている父のもとへ疎開するために、世田谷から清瀬まで荷物をリヤカーに積んで引いてきました。午後11時ごろに着いて、お風呂に入ったあとウトウトしていたら、突然窓の外が(照明弾で)昼間のように明るくなって、結研と清瀬病院の間の道路に爆弾が落ちたんです。警戒警報も空襲警報も何も無いのに…。

(高橋貞子さん P.7の日記参照)

不発弾の処理

“町報きよせ”や“市報きよせ”などによると、1966年の5月から7月にかけて、下宿で不発弾12発が処理されるなど、戦後になってから、空襲時の不発弾が数多く処理されました。

今の台田団地の宅地造成工事中に、戦時中アメリカ軍が投下した250キロ爆弾(直径30cm、長さ140cm)の不発弾3発が見つかりました。

このときは処理のミスでそのうちの1発が大爆発。住民に重軽傷3名、家屋の損壊14戸(全壊1戸)、窓ガラス約200枚が破損するなどの被害を出しました。

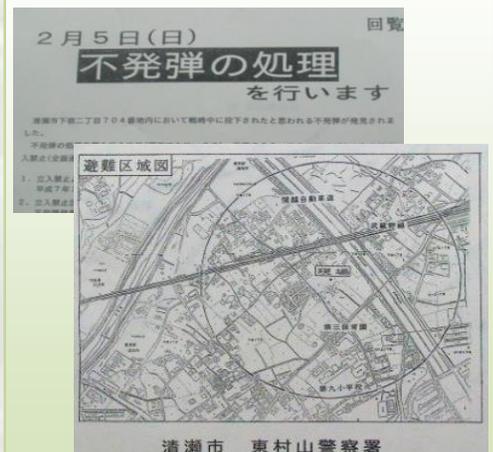
500mほど離れた織本病院(現医療法人財団きよせ旭が丘記念病院)でも車庫の屋根が破片などにより損傷を受けました。そして、隣の清瀬第三中学校の窓ガラスが割れ校庭に爆弾の破片が落ちたそうです。1971年3月5日の夕方のことでした。



2024年1月撮影

不発弾処理中の爆発現場は今の9号棟東方、16号棟の南にある空き地。写真のフェンスの手前は当時は数メートルの崖だったのを埋め立てて空き地にしてあります。2012年8月3日撮影

戦後50年にあたる1995(平成7)年にも、関越自動車道とJR武蔵野線が交差する南側で不発弾が見つかり、付近の住民に避難を呼びかけて無事に処理しました。



(1995年2月5日)

空中写真に見る 清瀬空襲
「傷痍軍人東京療養所」付近



傷痍軍人東京療養所
(現 国立東京病院)

(現 日本社会事業大学)
「外気舎」群

保養園

1947年7月24日米軍撮影 (USA-M380-104)
国土地理院発行「空中写真画像データ」に加筆

右の当直日誌4月2日の記述参照。空中写真の楕円の点線の中に見える白い斑点は着弾痕。

「傷痍軍人東京療養所」の当直日誌に見る
清瀬空襲

【「傷痍軍人東京療養所」の日誌から要約】

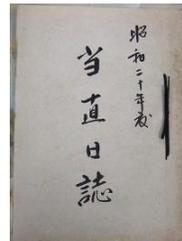
4月1日(日) 岩井・佐々木

午後8時第一回警報発令。
(2日)午前2時第二回発令と同時に
B29ノ来襲 照明弾投下により
敵機の来襲は平常ならざるを認め
全員出動命令を下す。
以後、B29の来襲ものすごく、
数百発に及び照明弾投下(注1)に依り
正に昼の如し
爆音、高射砲、高射機銃、爆弾投下の
音響にここ上空も全くの戦場と化す。
高射砲の命中、火を噴き落下するB29、
清瀬病院の近くに撃墜せり(注2)(注3)
実に壮感(注3)なり。
爆弾の音ごく間近に落ちたる感幾度か。
停電により(警報)解除の報なきも、
約二時間はB29絶間なし。

4月2日(月) 宮本

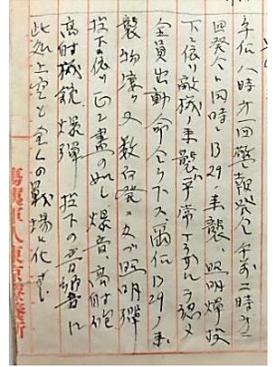
早朝当所より、看護婦5名救急班として
出動。郵便局(注4)方面に埋没仮死十数名(注5)。
保養園・清瀬病院に爆弾落下被害有り、
当所にも近くに爆弾投下、目下外気五寮
より保養園にかけて非常区域を命じ
出入に厳重なる注意をうながす。
今なお時限爆弾の炸裂する音響 所内を
振動させつつあり、無気味なり、
幸い当所は被害なきも、
以後いよいよ全員一致
敵機来襲に対し一層の
緊張を心掛けたし。

当直日誌の表紙
(二〇二一年二月撮影)



東京病院所蔵

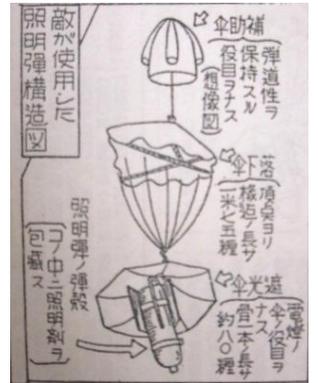
「傷痍軍人東京療養所」 当直日誌



傷痍軍人東京療養所の
用箋に記された当直日誌
昭和二十年四月一日の冒頭部分
(二〇二一年二月撮影)

東京病院所蔵

(注1) 米軍資料に、百数十機のB29がそれぞれ4発の照明弾(下図参照)を搭載したとの記録がある。



『朝日新聞』(1945年4月2日)より

- (注2) 秋津に撃墜されたB29のこと
- (注3) 漢字の用法は原文表記のまま
- (注4) 村野庄司村長宅地内(現上清戸一丁目)
- (注5) 資料(史料)による裏づけはないが、中清戸での爆死者数とほぼ一致する。

旧傷痍軍人東京療養所「外気舎」

今の東京病院の辺りは、戦時中は傷痍軍人の療養所でした。1945(昭和20)年4月2日の清瀬空襲の時のようすを記した当直日誌(上記参照)が東京病院に保存されています。着弾の内容を裏付ける空中写真(上記)とあわせて読んでみてください。



2023年
12月撮影

当時、結核患者に外気療法や作業療法を行った「外気舎」と呼ばれる病舎がありました。今の日本社会事業大学の辺りに72棟あった「外気舎」の1棟を東京病院西側の庭に移して保存しています。

旧海軍大和田通信隊跡地

下清戸の南東部から新座市にまたがる一帯は、旧海軍の大和田通信隊の跡地で、現在はアメリカ軍の通信基地になっています。近くの農地に右のような「海軍用地」の境界石が残っています。



2024年1月撮影

- 1936(昭和11)年 海軍通信基地として6カ国の電波傍受開始
- 1941(昭和16)年 真珠湾攻撃の暗号「ニイタカヤマノボレ」を受信確認
- 1945(昭和20)年 海軍省から中央气象台(今の気象庁)に移管
- 1950(昭和25)年 朝鮮戦争勃発直前アメリカ海軍が強制接收
- 1980(昭和50)年以降 横田基地・所沢通信所と指揮命令を一体化



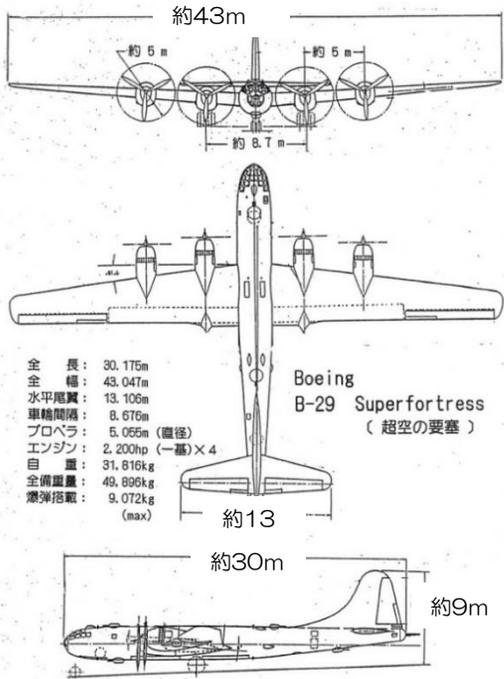
2020年10月撮影

清瀬と空襲 ③ 平和観音像 (東村山市秋津町1丁目… B29墜落地点)

1945(昭和20)年4月2日、中島飛行機武蔵製作所を標的にしたB29爆撃機115機のうち1機が、高射砲の砲弾で被弾。清瀬病院に爆弾を落としたあと、東村山町南秋津(現 東村山市秋津町1丁目)の小俣宅の畑に墜落して爆破炎上。搭乗員11名が全員死亡しました。亡くなった兵士のほとんどが20代の若者でした。(下部「墜落したB29の搭乗員名簿」を参照)

亡くなった搭乗員の霊を慰め、永久の平和を祈念して、1960(昭和35)年7月、「平和観音像」が建立されました。発願者は小俣権次郎さん。その年の12月に、東村山町長や米軍関係者らが集って開眼法要がおこなわれました。

B29ってどんな飛行機？



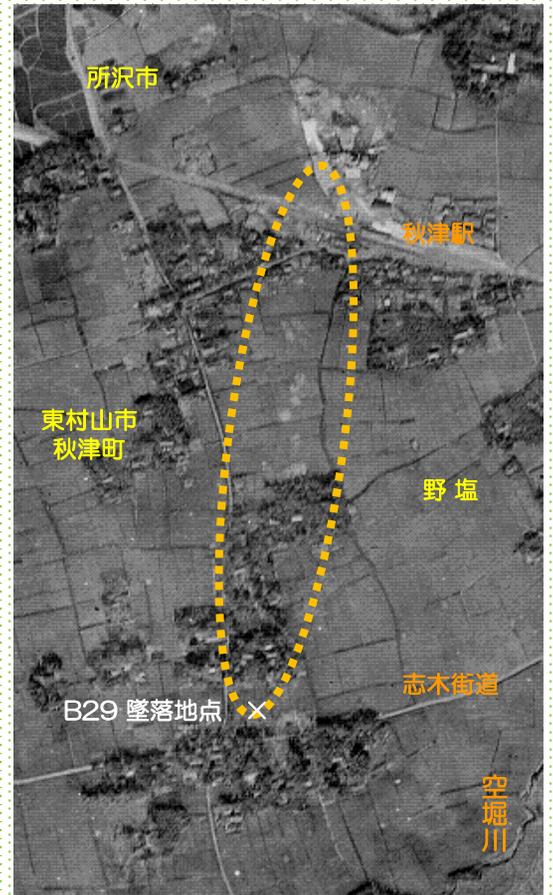
「空の超要塞」と呼ばれ、両翼が約43m、胴体が約30m、高さが約9mで、2,200馬力のエンジンを4基持ち、11から12名が乗り組んでいました。

B29の航続距離は約6,000kmで、1機当り最大で9トンもの焼夷弾や爆弾を積んで、約2,500km離れたマリアナ諸島のグアム・サイパン・テニアン各基地から飛来しました。

1944(昭和19)年11月から翌年8月15日の敗戦まで、日本の諸都市は毎日のように爆撃されました。

空中写真に見る着弾痕跡

下の空中写真はアメリカ軍の爆撃による着弾痕跡
 1946年3月9日 米軍撮影 (USA-M68-A-6-2-152)
 国土地理院発行「空中写真画像データ」



1945年4月2日の空襲のとき、武蔵野鉄道(現西武池袋線)秋津駅構内に、爆弾2発が落下して破壊されたため、池袋・清瀬間で折り返し運転をしたと、「東京大空襲戦災誌 第3巻」に記録されていますが、上の空中写真は、その証拠を示すひとつの資料といえます。

平和観音像 (B29墜落地点)



2023年12月撮影



小俣さんご家族が新しい祈念プレートを設置されました(2014年4月2日)

墜落したB29の搭乗員名簿 (B29 第二爆撃隊 第48爆撃大隊第873中隊)

氏名	階級	ポジション	生年月日
ウィリアム・E・フィルバート	中尉	パイロット	1920. 3.25
エドワード・M・ラドフスキー	中尉	副操縦士	1917. 7. 7
ノーマン・ダブ	少尉	航海長	1918.12.25
ネルソン・L・ハーマン	中尉	爆撃手	1920.10. 3
フランク・T・ジャン	少尉	整備長	1917.11. 8
マリオン・E・ボーデル	軍曹	無線士	1908. 5.20
フェイ・H・タトル	軍曹	銃撃手	1916. 6.26
ウォレス・J・ピッツ	軍曹	銃撃手	1923.12.17
ハーマン・W・ガーバー	軍曹	銃撃手	1923.11.25
オーガスト・J・グアリノ	軍曹	レーダー係	1920. 8.15
ラッセル・W・サンキスト	曹長	銃撃手	1922. 7.21

上の写真の銅版の碑文に記されたもの

平和観音発願由来

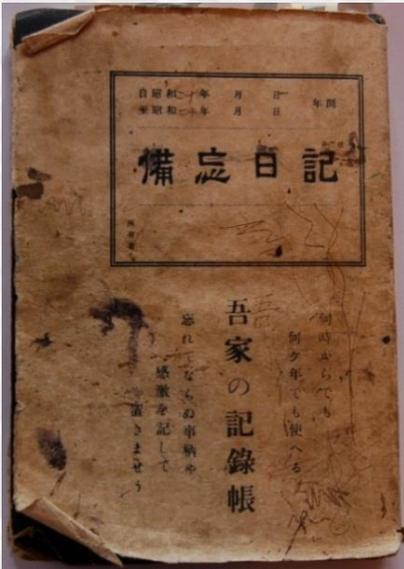
東村山村々会議員として在職中、偶々極度の苦難に遭遇せし時、計らずも全村西宿在徳蔵寺住職より菩薩の御教を聞き深く発信する処あり、以来ここに日常坐臥観音自在菩薩を守護神として、身に帯し今日迄何事無きを得、戦時中偶々此地に於て貴き幾多の人命を損ず。茲に人類の永久平和を祈願し、在天の英霊を慰め、慈悲を求め本像を発願建立せし次第なり、散華の英霊願くば我が意を汲み、安らかに眠り給へ

昭和三十五年七月二日

小俣権次郎

戦時中の暮らし

人びとの暮らし



齊藤米蔵さんの日記帳の一部
1945(昭和20)年の「備忘日記」
齊藤靖夫氏所蔵

人びとの日常の交通手段はおもに徒歩と自転車で、でこぼこの砂利道を、土ぼこりやぬかるみ、夜には街灯のない暗闇を懐中電灯やちょうちんを頼りに行き来しました。

成人した男は徴兵や徴用で出征したり、軍需工場などへ働きに行きました。小学生も高学年になると田畑の草取りやイナゴ取りに行かされました。また、おとなには“勤勞奉仕”という労働の割り当てがありました。

村の人びとの多くは農業に従事していましたが、下の年表に見るように、勤勞奉仕に所沢や三鷹まで出かけて、小型戦闘機を敵機から隠すための掩体壕(えんたいごう)をつくるほか、松の根掘りや、空襲で穴のあいた道路の埋立てなどをしました。ときには、戦死者の遺骨の出迎えや葬儀に参列することもありました。

市内では政府の政策で、松の根から油をとって航空機の燃料にするため、松の根掘りが割り当てられ、松山地区で松の根を掘りました。松根油(しょうこんゆ)の製造設備は上清戸1丁目(サカガミ清瀬店の道路挟んで向かい)にありました。

そのほか出征兵士の留守宅の防空壕(ぼうくうごう)づくりを手伝ったり、国民学校高等科の生徒たちが中央線の国分寺駅まで出かけ、学童疎開用と思われる机や椅子を、リヤカーに積んで清瀬まで運んできたり、おとなもこどもも大変でした。

戦時中はいろいろな統制と、配給制度がとられましたが、その配給も十分にはいきなりませんでした。それでも海軍や陸軍の軍人が訪ねてくると、握り飯をつくってもてなしたり、農家をまわって野菜などを集めたり、週に一度は学童疎開のこどもたちのために寺に届けた人もいました。1945年4月2日の空襲のとき、村では女とこどもばかり16人が爆死し、村人以外でも疎開してきた1人と、清瀬病院の入院患者2人が犠牲になりました。

下の年表の最後の2行からは、戦争が終わってホッとした感じが伝わってきます。

年表：日記に見る戦時中の清瀬(齊藤米蔵さんの日記から)

清瀬村会議長や清瀬町教育委員長などを務められた齊藤米蔵さんの日記をもとに、戦時中の出来事を年表にしてみました。

1944(昭和19)年

- 1月 3日 (長男隆司の海軍入営) 1月10日午前7時半東京駅発と決まる(注1)
- 1月 9日 隆司入団出発の日なり 親戚来る(入団駅へ送る)(注1)
- 4月 21日 (戦死者)三名の村葬あり
- 5月 3日 五人で横浜で(隆司)と面会后 (軍艦)三笠見学(注2)
- 6月 9日 秀雄に徴用来る。(→12日に徴用検査に行く)
- 8月 17日 靖夫 国分寺へ 机椅子を(リヤカーで清瀬国民学校へ)引いてくる(注3)
- 8月 25日 清瀬へ学童疎開児童来る(注3)
- 9月 3日 勤勞奉仕 三鷹大沢に飛行機分散の仕事(掩体壕へ隔離の作業か)(注4)
- 11月 7日 B29を畑で見た 空襲警報出る(注5)
- 11月 24日 保谷で警報 神山(うやま)宮脇に避難する 久留米に爆弾落ちる(注6)
- 12月 2日 警防団で2軒(出征兵士の留守家庭)の防空壕を掘る
- 12月 14日 所沢へ勤勞奉仕に行く 2人分 金5円90銭受け取る

1945(昭和20)年

- 1月 12日 小平へB29の残骸を見に行く(注7)
- 2月 20日 足袋(たび)配給 6点 5円31銭 炭一俵配給 4円60銭
- 2月 25日 新聞4日分配達 B29 130機来襲
- 3月 9日 夜間大空襲 東京大火災(注8)
- 3月 24日 戦死者四名の村葬があった
- 4月 2日 未明空襲 中清戸・下宿・中里へ時限爆弾 秋津にB29落つ。(注9)
- 4月 3日 午前 清瀬病院裏・道路穴埋め(注9) 午後 農業倉庫の麦類片づけ。
- 4月 10日 秀雄 下宿穴埋め
- 4月 12日 靖夫(田無)の中島飛行機にはじめて行く(就職)
- 4月 14日 (松根油)の松の根掘り(注10) 420貫目 一人当たり30貫目 2隣組
- 4月 25日 大和田海軍(の兵隊)が遊びに来る
- 4月 30日 午前空襲あり 村野庄司氏村長就任披露あり
- 5月 25日 小型機空襲 夜 B29 坂の下(所沢)下宿(焼夷弾で)3軒焼ける
- 6月 20日 米の配給 金17円50銭(初めて)
- 7月 29日 田無へ一機 爆弾落とす(新型?) (注11) 秀雄松の根掘り(注10)
- 8月 15日 大詔下る
小川屋前に警防隊が集まり、正午(ラジオで)陛下のお言葉を聞く(注12)
- 8月 17日 防空壕より(物)出して干す
- 9月 8日 家の防空壕半分埋める

齊藤米蔵さんの日記 【注記】

齊藤米蔵…1896(明治29)年生 隆司…1923(大正12)年生
秀雄…1929(昭和4)年生 靖夫…1931(昭和6)年生

(注1) 午前7時半の東京駅発に間に合うためには、前日に清瀬を出て都心で1泊した。

(注2) 戦意高揚・国威発揚のため日露戦争時の旗艦「三笠」の見学が奨励されていた。

(注3) 学童疎開受け入れ準備に国民学校高等科の生徒が動員された。

(注4) 調布飛行場近くの武蔵野の森公園(三鷹市大沢に事務所)などに掩体壕が保存されている。

(注5) B29の偵察飛行と思われる。東京上空初飛行は11月1日。

(注6) B29の東京初空襲。目標は中島飛行機武蔵製作所というのだが…。東久留米市大門の浄牧院には250*爆弾が落ちたことを伝える爆弾型の記念碑がある。

(注7) 9日に日本軍の戦闘機の体当たりでB29が国分寺の野中新田に墜落し、機体の一部が小平の小川に落下した。

(注8) 東京大空襲(P.3参照)

(注9) このB29に清瀬病院が爆撃され、その復旧に動員された。(P.4体験談参照)

(注10) 1944年秋から政府の政策で松の根掘りがすすめられ、乾留して航空機の燃料の油を採った。

(注11) 高性能爆薬をつめた4.5*爆弾。10日後に長崎に投下される原爆と同型の「原爆模擬爆弾」。原爆投下訓練のために約50か所で実施された作戦の一つ。強烈な爆風で民家倒壊。柳沢で3名死亡。

(注12) 「玉音放送」と呼ばれている。事前に予告放送があった。

清瀬市議会は、世界の平和と核兵器の廃絶を願って、1982年9月29日に「非核清瀬市宣言」をしました。

非核清瀬市宣言

世界の恒久平和は、人類共通の願いである。

我々は、世界で唯一の被爆国民として、被爆の恐ろしき、被爆者の苦しみを、声を大にして全世界の人々に訴え、再び「広島」・「長崎」のあの惨禍を繰り返させてはならない。

我々は、非核三原則（造らず、持たず、持ち込ませず）が完全に守られることを願い、すべての核保有国に対し、核兵器の廃絶と軍縮を求め、いかなる国の、いかなる核兵器も、わが清瀬市内に配備・貯蔵することはもとより、配備訓練、空中輸送、核部隊の通過も許さない。

我々は、核攻撃の目標となるおそれのある施設の撤去に務め、いかなる理由があろうとも、新たに設けることを認めず、疑わしき施設の実態把握と公表に務めることを宣言する。

昭和五十七年九月二十九日 清瀬市議会

THE NON-NUCLEAR DECLARATION OF KIYOSE CITY

Eternal world peace is a desire common to all mankind.

As the only nation who has been atom-bombed, We must testify to the terror of the atomic bomb attack and the suffering of atomic bomb victims to the people all over the world in a loud voice, and we must not allow the terrible disasters in “Hiroshima” and “Nagasaki” to be repeated.

We wish for the complete observance of the three non-nuclear principles(not to manufacture, possess, or introduce nuclear weapons), demand the abolition of nuclear weapons and the disarmament of all nuclear power, and we will never allow the deployment, training or air transport of any nuclear unit, let alon their deployment and storage in Kiyose City.

We declare that we will endeavor to remove the facilities likely to be a target of nuclear attack . And we will not allow such facilities to be built for any reason. Furthermore, we will investigate and make public the actual condition of the suspicious facilities.

September 29,1982

Kiyose City Council

「平和祈念展等実行委員会」より

1982年に市議会が「非核清瀬市宣言」を議決したのを受けて、清瀬市は、市内に「非核平和宣言塔」を設置し、昭和61年度より平和祈念展を、平成7年度より「ピース・エンジェルズ(児童・生徒の広島派遣)事業などの平和祈念事業を行っています。

平和祈念等実行委員会は平成18年度設置され、市民公募による委員で組織されています。委員会は、市と協働して、戦争の悲惨さを知り、平和の大切さ、人命の尊さを考えるための活動を企画・実施しています。

実行委員会は東京大空襲のあった3月と原爆が投下された8月に「平和祈念フェスタin清瀬」を開催し、講演会、展示会、ピースエンジェルズ広島訪問報告会、音楽会、映画会などを行ってきました。また、令和2年度より講演や戦争の体験談などをYouTubeで配信することにも取り組んでいます。

本パンフレットは、「清瀬にも戦争があった」ことを風化させず広く知っていただくという趣旨で作成された『清瀬と戦争』(2015年版)の改訂版です。「清瀬の戦時遺跡マップ」も合わせて改訂しました。なお、写真については写真家ツジ様にご協力いただきました。

広く活用していただきますようお願いいたします。



清瀬市しあわせ未来センター
2024年2月撮影

編集発行：2024年2月

清瀬市平和祈念展等実行委員会
事務局

清瀬市地域振興部市民協働課協働係
〒204-8511 東京都清瀬市中里5-842
TEL042-497-1803(直通)